

琉球大学学術リポジトリ

発刊のことば

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 俊一, Shimabukuro, Shun-ichi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015058

発 刊 の こ と ば

これまでも農業関係者の結合体がないわけではなかった。ある場合は自発的だったし時に半官製的だったこともある。また機関誌の発行もあったが何れも永つづきしなかったように思う。今回私共は他に強いられることなく全く自発的な気持ちから沖縄農業研究会を結成することにした。ちょうどその時期にきているのではないかと思われたからである。と云うのは農業自体の体質改善の点から幾多の問題点をかかえているし対外的には特に貿易自由化の面から甘蔗やパイナップルの輸出農産業においてコストダウン、品種その他の耕種などの研究課題が山積している。

戦前「品種は台湾から、栽培技術は日本から」の合言葉があったように思うが、その日本と隔絶し台湾との交流も意にまかせない現状である。反対に米本土やハワイなどからの品種導入や情報交換はそれほど困難でない。こう云う新しい事態に即応してますます沖縄農業の占める立場を堅固にしさらに発展せしめる上から御互農業関係者が手をにぎり合うことは大切な時期であると思われる。かつ機関誌を通じて研究成果を発表すれば御互のみならず関係方面にもたらす効果も大きいと思う。これも当分年二回と云うことだが近い将来季刊にすることも決して夢とは思っていない。

大田主席は就任当初から試験場と琉大関係学部との提携を言明しておられた。今日では日米琉結合の現われの一つとして「琉球模範農場」のスタートも見ている。あれやこれやで農工商間の収入面の較差も何れ縮少されるであろう。われらは沖縄農業の後進性を徒らになげく事なくこれを打開し向上するための努力を払ってゆきたく思う。そのためにも本会をいよいよ発展せしめねばならない。大方の御賛同と御協力を切に御願ひする次第であります。 (5月5日)

沖縄農業研究会設立準備委員長

農学博士 島 袋 俊 一